

研究機関：広島大学

研究課題名 内視鏡を用いた遠位胆管癌病理診断能と進展範囲診断能の検討

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学 教授 茶山 一彰

研究期間 2020年9月11日（倫理委員会承認後）～ 2030年12月31日

対象者

2007年4月から2027年12月の間に、広島大学病院消化器・代謝内科で胆管癌と診断された患者さん。

意義・目的

胆管癌には鑑別が必要な良性胆管狭窄が存在し、これらを鑑別し胆管癌を正しく診断することは非常に困難です。正しく診断したとしても、胆管癌の進展様式には特徴があり、胆管壁に対して水平方向、垂直方向への進展を認めます。これらの進展様式を正しく診断し、根治的治療を行うことが、胆管癌の予後の改善となります。今回我々は、胆管癌の組織学的診断能と胆管癌の水平方向進展を正確に診断する方法を明らかにすることを目的に本研究を計画しました。

方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査、各種画像所見です。

（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

共同研究機関

当院での単独の研究です。

試料・情報の管理責任者

広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5192

広島大学病院 消化器・代謝内科診療科 職名 診療講師 氏名 壺井智史